

Requested Patent: JP5050696A

Title: LABEL PRINTING

Abstracted Patent: JP5050696

Publication Date: 1993-03-02

Inventor(s): ITO KUNIIHIKO

Applicant(s): EIBURII TOPPAN KK

Application Number: JP19910215569 19910827

Priority Number(s):

IPC Classification: B41J21/00 ; B41J3/407 ; B41J5/30 ; B41K3/00

Equivalents:

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide a label printing technique by which to print a label accurately, easily, rapidly and at low cost.

CONSTITUTION: A label sheet having a label layout pattern consisting of more than one type of defined, peelable labels arranged at their specified respective positions is set in a means for information output. Then label layout pattern information corresponding to a label layout pattern is read into a means for displaying an image 3 from a means for holding information 2 which holds label layout pattern information corresponding to the label layout pattern of a label sheet. Further, desired input information is entered in the required label defining frame of the label layout pattern information thus read using a means for entering information 4. In addition, only input information entered in the required label defining frame is printed out in the label of the label sheet using the means for outputting information 5.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平5-50696

(43) 公開日 平成5年(1993)3月2日

(51) Int Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 4 1 J 21/00	Z	8804-2C		
3/407				
5/30	B	8907-2C		
B 4 1 K 3/00	A	9112-2C		
		7339-2C	B 4 1 J 3/00	F

審査請求 未請求 請求項の数1(全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平3-215569

(22) 出願日 平成3年(1991)8月27日

(71) 出願人 591186888

エイブリー・トツバン株式会社

東京都港区芝浦3丁目19番25号

(72) 発明者 伊東邦彦

福島県福島市野田町字八郎内14-1

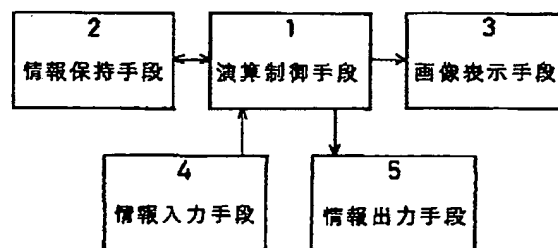
(74) 代理人 弁理士 西脇 民雄

(54) 【発明の名称】 ラベル印字方法

(57) 【要約】

【目的】 正確、容易、迅速かつ廉価にラベル印字ができるラベル印字方法を提供する。

【構成】 1種以上の形状に画成され、剥離可能されたラベルが所定位置に配置されたラベルレイアウトパターンを有したラベルシートを情報出力手段にセットし、前記ラベルシートの前記ラベルレイアウトパターンに対応したラベルレイアウトパターン情報を保持した前記情報保持手段から前記ラベルレイアウトパターンに対応した前記ラベルレイアウトパターン情報を画像表示手段に読み出し、読み出された前記ラベルレイアウトパターン情報の必要ラベル画成枠内に所望の入力情報を情報入力手段で入力し、前記必要ラベル画成枠内に入力した入力情報のみを前記ラベルシートの前記ラベル内に前記情報出力手段で印字出力する構成としている。



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】ラベルシートは、1種以上の形状に画成され、剥離可能にされたラベルが所定位置に配置されたラベルレイアウトパターンを有しており、情報保持手段は、前記ラベルシートの前記ラベルレイアウトパターンに対応したラベルレイアウトパターン情報を保持しており、

所望の前記ラベルレイアウトパターンを有する前記ラベルシートを情報出力手段にセットし、

当該ラベルシートのラベルレイアウトパターンに対応した前記ラベルレイアウトパターン情報を前記情報保持手段から画像表示手段に読み出し、

読み出された前記ラベルレイアウトパターン情報の必要ラベル画成枠内に所望の入力情報を情報入力手段で入力し、前記必要ラベル画成枠内に入力した入力情報のみを前記ラベルシートの前記ラベル内に前記情報出力手段で印字出力することを特徴とするラベル印字方法。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、情報保持手段に保持された情報を画像表示手段に読み出し、読み出された画像表示手段の情報を利用して追加情報を入力し、ラベルシートのラベルに情報出力手段によって追加情報のみを印字出力するラベル印字方法に関するものである。特に、ビデオテープカセット、音楽テープカセット、フロッピーディスクおよびその他の収納ケース等に貼付されるラベルにタイトル、記録内容等のインデックスを印字する際に使用される。

## 【0002】

【従来の技術】従来、この種の技術としては、実公平3-8460号（平成3年3月1日公告）公報に開示された技術がある。

【0003】これによれば、ワードプロセッサは製造メーカーによってプリント位置が異なっているので、正規のプリント用紙にプリントする前にテストプリントによって上下左右の位置を確認し、適正位置に修正後プリントするのが一般的である。しかし、郵便宛先用ラベルなどの場合、適当なテストプリント用紙が無く、したがって高価な剥離紙である正規のシートをテストプリント用紙として使用するのが実情で、不経済である。そこで、この技術では目安となる目盛等を設けたテストプリント用紙が提供されている。

【0004】また、ビデオテープカセット、オーディオテープカセット、フロッピーディスクなどの大面や小面に貼るラベルは多種多様な形状をしており、しかもラベルに印字する際には、文字のレイアウトや文字の大小などバランスをとるには実際に文字をラベルにテスト印字し、その結果をもとに随時修正を加えていく方式がとられていた。何度もテストする必要から、これらのラベルの形状や配置に対応した正規のラベルシートより廉価な

2

専用のテスト用プリント用紙が提供されている。

## 【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、両者ともテスト用プリント用紙を必要とし、しかもその用紙をセットし、ワードプロセッサに入力した情報をテスト用プリント用紙上に打ち出して位置、大小等の調整をして確認をすることになり、時間や費用がかかっていた。

## 【0006】

【発明の目的】そこで、この発明は、テスト用プリント用紙など用いることなく、入力した情報を直接ラベルシートに印字することができるラベル印字方法を提供し、熟練者でなくとも短時間で、費用も掛からずラベル印字ができるようにすることを目的としている。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】この目的を達成するためこの発明のラベル印字方法は、「ラベルシートは、1種以上の形状に画成され、剥離可能にされたラベルが所定位置に配置されたラベルレイアウトパターンを有しており、情報保持手段は、前記ラベルシートの前記ラベルレイアウトパターンに対応したラベルレイアウトパターン情報を保持しており、所望の前記ラベルレイアウトパターンを有する前記ラベルシートを情報出力手段にセットし、当該ラベルシートのラベルレイアウトパターンに対応した前記ラベルレイアウトパターン情報を前記情報保持手段から画像表示手段に読み出し、読み出された前記ラベルレイアウトパターン情報の必要ラベル画成枠内に所望の入力情報を情報入力手段で入力し、前記必要ラベル画成枠内に入力した入力情報のみを前記ラベルシートの前記ラベル内に前記情報出力手段で印字出力すること」としている。

## 【0008】

【作用】ラベルシートのラベルレイアウトパターンに対応したラベルレイアウトパターン情報が保持されている情報保持手段から、所望のラベルレイアウトパターン情報を画像表示手段に読み出す。読み出されたラベルレイアウトパターン情報の使用ラベル位置に対応した各ラベル画成枠内に所望の入力情報を情報出力手段で入力する。入力情報のみをラベルシートの対応した各ラベル内に情報出力手段でテストすることなく印字出力する。

## 【0009】

【実施例】次に図面に基づいてこの発明を説明する。

【0010】図1～図3は、この発明の一実施例を示す図である。図1は例えばコンピュータの概略構成図で、図中1は演算制御手段で、CPUと一般にいわゆるワードプロセッサあるいはワードプロセッサ機能を有するコンピュータの本体部分をなす。演算制御手段1に情報を提供し、演算制御手段1から情報を受けて情報を保持する情報保持手段2としてメモリ、フロッピーディスク、光ディスク等がある。情報保持手段2からの情報あるい

3

はキーボードやマウスなどの情報入力手段4からの情報を演算制御手段1に受けて液晶ディスプレイや、TVモニターなどの画像表示手段3に写し出す。この表示内容を確認し、プリンタなどの情報出力手段5により必要な表示内容のみを用紙などに出力する。この様な構成の機器に本願発明は適用される。

【0011】図2に示される符号6は、A4、B5、B4等所定の大きさに単票または連続帳票として作られたラベルシートで、このラベルシート6には例えばビデオテープカセット用のラベル7が適当に割り付けられて所定位置に配置されたラベルレイアウトパターンを有している。各ラベル7を画成しているスリット8が形成されていてラベル7を図のように剥がして例えばビデオテープカセットに貼り付けている。勿論、ラベル7は同一ラベルシート6上で異なる大きさや形状のものが割り付けられていてもよい。

【0012】図2に示すラベルシート6を使用するとき、ラベルシート6の大きさ、縦横を判断し、演算制御手段1で初期の書式設定をする。ラベル7の面付サイズ（スリット8で囲まれた大きさ）から適当と思われる文字ピッチ、改行ピッチを設定し、図3のaの如く、1文字（2バイト）に相当する文字記号「□」又は罫線で作る升目状枠等の文字枠9を画像表示手段3の画面上にラベルシート6の大きさに対応して前述の書式設定で取った割付面一杯に入力して原稿用紙状或は基盤の目状に表示する。

【0013】この表示状態を情報出力手段5によってラベルシート6と同じ大きさの用紙10に印字させる。また、ラベルシート6と同じ大きさでラベル7のスリット8相当の線12が描かれた透明フィルム11を前もって作成しておき、この透明フィルム11を文字枠9が原稿用紙状又は基盤の目状に印字された用紙10に図3のbのように重ね合わせる。

【0014】このように重ね合わせた状態で、どの位置の文字枠9の上にスリット8相当の線12がかかるのかを確認し、情報入力手段4で演算制御手段1に入力し、その文字枠9上に罫線を引く。例えば図3のbに示されるフィルム11の左上隅のスリット8相当の線12に着目すると、線12は1行と5行の1列から13列までの文字枠9に、さらに1列と13列の1行から5行までの文字枠9にかかっていることが分る。他の線12にも同様にしてこれらの文字枠9上に罫線を情報入力手段4で入力すると、演算制御手段1で処理されて、図3のaのように画像表示手段3の画面に表示されていた多数の文字枠9のうち、先述のスリット8相当の線12に掛かっている画面上の文字枠9は消えて、消した文字枠9の中央に罫線13が描かれて図3のcのように表示される。

【0015】次に、図3のcのように、スリット8相当の線12に対応した罫線13と文字枠9とが表示されているところから、文字枠9を全て削除する指示を情報入

4

力手段4で入力すると、演算制御手段1によって処理され、図3のdのように、ラベル6のスリット8相当の画面上の線13だけが必要ラベル画成枠として残る。この画面上で線13により画成表示された必要ラベル画成枠の大きさは、ラベルシート6のラベル7の実際の大きさおよびフィルム11の線12により画成された枠の大きさと対応関係はあるが一般的には同一ではない。

【0016】図3のdにおいて、罫線13で画成されたようにラベルシート6のラベルレイアウトパターンに対応したラベルレイアウトパターン情報は演算制御手段1によって情報保持手段2に記録され保持される。

【0017】このように、1種以上の形状に画成され、剥離可能にされたラベル7が所定位置に配置されたラベルレイアウトパターンを有するラベルシート6が種々あるとき、このラベルレイアウトパターンに対応した1種以上のラベルレイアウトパターン情報を1または複数の情報保持手段2に記録し保持している。

【0018】以下、ラベルレイアウトパターン情報を保持した情報保持手段2とこのラベルレイアウトパターン情報に対応したラベルシート6とを用いて、この発明のラベル印字方法を説明する。

【0019】まず、使用したい形状のラベル7があるラベルシート6を選択し、これを情報出力手段5にセットし、また、このラベルシート6のラベルレイアウトパターンに対応したラベルレイアウトパターン情報が少なくとも保持されている情報保持手段2を選択する。

【0020】この情報保持手段2から必要なラベルレイアウトパターン情報を画像表示手段に読み出すと、図3のdのようになる。図3のdの罫線13で画成されたラベル7相当枠の必要な（ラベルシート6の印字を所望するラベル7の位置に対応した）ラベル画成枠内に所望の入力情報、例えば、A、T、Cを情報入力手段4で図3のeの如く入力する。このことは、ラベルシート6の一部のラベル7が既に使用されているとき、1枚のラベル7だけ、全ラベル7に等、所望するラベルシート6のラベル7に対応した画面上のラベル相当枠に入力することでもある。

【0021】この入力、図3のcで示されるラベル画成枠内の文字枠9の位置上であれば大きさ、位置を自由に選択してできる。そして画面上で罫線13を消去するとか、罫線を印字しないとかの手段、すなわちラベルレイアウトパターン情報を印字しない指令によって、この様に追加入力された情報だけは、情報出力手段5で印字出力すると、すでにセットしてあったラベルシート6の所望のラベル7内にA、T、Cの文字のみが印字出力される。印字されたラベル7を剥して所望のところに貼って使用するとともに、未使用のラベル7があるラベルシート6は次の機会に使用しうることは勿論である。

【0022】

【発明の効果】以上のようなラベル印字方法では、単に

5

用意された所望のラベルシートとこれに対応した情報保持手段とを使用し、画成表示手段の画面上に読み出されたラベル枠内に入力するだけである。したがって、テスト用プリント用紙を使用したり、位置調整で時間を使ったりすることがなくなり、熟練者も必要なく、正確、容易、迅速かつ廉価にラベル印字ができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1はコンピュータの概略構成図である。

【図2】図2はラベルシートの要部を示す斜視図である。

【図3】図3はラベルシートに対応したラベルレイアウト

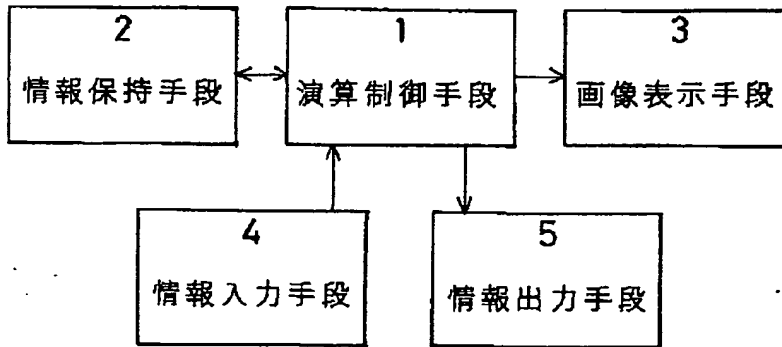
トパターン情報を情報保持手段に記録保持させる方法を示す説明図である。

【符号の説明】

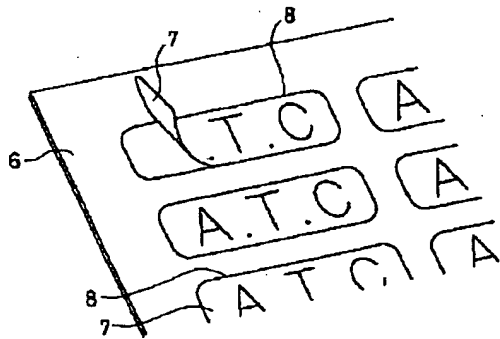
2 情報保持手段  
3 画像表示手段  
4 情報入力手段  
5 情報出力手段  
相当の線  
6 ラベルシート  
10 7 ラベル

8 スリット  
9 文字記号口  
12 スリット相当の線  
13 画面上のスリット

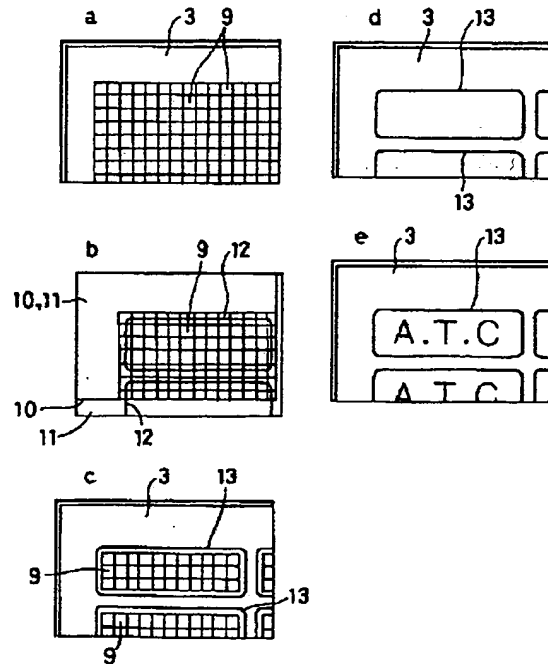
【図1】



【図2】



【図3】



## 【手続補正書】

【提出日】平成3年9月13日

## 【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正内容】

【0012】図2に示すラベルシート6を使用するとき、ラベルシート6の大きさ、縦横を判断し、演算制御手段1で初期の書式設定をする。ラベル7の面付サイズ（スリット8で囲まれた大きさ）から適当と思われる文字ピッチ、改行ピッチを設定し、図3のaに示すように、画像表示手段3の画面上において、1文字（2バイト）分のスペースを表わす文字記号「□」を画面一杯に入力して、文字枠9の集合により原稿用紙状に表示する。なお、本実施例では上述した通り1文字分のスペースを表わすのに文字記号「□」を用いて文字枠9を表示させているが、必ずしも文字枠9にこだわる必要はなく、例えば文字「あ」を入力することや演算制御手段1によりドットプロンプト「・」を表示させること等によって代用することが出来る。

## 【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正内容】

【0014】このように重ね合わせた状態で、どの位置の文字枠9の上にスリット8相当の線12がかかるのかを確認し、情報入力手段4で演算制御手段1に入力し、その文字枠9上に罫線を引く。例えば図3のbに示されるフィルム11の左上隅のスリット8相当の線12に着目すると、線12は1行と5行の1列から13列までの文字枠9に、さらに1列と13列の1行から5行までの文字枠9にかかっていることが分る。他の線12にも同様にしてこれらの文字枠9上に罫線を情報入力手段4で入力すると、図3のaのように画像表示手段3の画面に表示されていた多数の文字枠9のうち、先述のスリット8相当の線12に掛かっている画面上の文字枠9は消えて、消した文字枠9の中央に罫線13が描かれて図3のcのように表示される。